



# まろにえ

令和5年8月28日  
学校だより 第5号  
羽村市立羽村第一中学校

## 充実した2学期にするために

校長 三浦利信

8月28日から2学期が始まりました。新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等の行動制限がない夏休みは4年ぶり、帰省・観光客で賑わう駅や渋滞の高速道路など、コロナ禍前の懐かしさを感じました。また、7月から続いた猛暑は、真夏日（最高気温30℃以上）は当たり前、猛暑日（同35℃）も続きました。夏休み中には、元気に活躍する羽村一中生の姿を見ることができました。運動部は、ソフトテニス部、卓球部、ソフトボール部、陸上部が都大会に進出しました。水泳で全国大会に進んだ生徒もいました。文化系の部活も、コンクールや演劇祭等に積極的に参加しました。また、青梅市と共同実施の「ピースメッセンジャー」として代表生徒が広島を訪れました。

開校77年目の「実りの秋」、1ヶ月後の9月30日には羽村一中の大きな行事である「第75回体育大会」も予定されています。一人一人が練習や準備に真剣に取り組むことで自分の力を高め、クラスや学年の仲間の力を信じて団結力を発揮し、体育大会を成功させて欲しいと思います。また、2学期になると部活動や生徒会・委員会活動の中心が、3年生から2年生へと引き継がれていきます。引継ぎ当初は不安な表情が多くみられる生徒たちですが、1年後には自信に満ち溢れた表情へと変化します。立場や役割による経験の大切さを感じます。

羽村一中生が大きく成長する、充実した2学期となることを期待します。

## 自助・共助の大切さ（9月3日羽村市総合防災訓練）

今年、大正12年（1923年）9月1日に発生し、東京、神奈川を中心とする南関東で大きな被害を出した関東大震災から100年になります。関東大震災では、主に火災により10万人以上の方が亡くなるとともに、多くの住民が家族と住居を失いました。

地震のような自然災害は、防ぐことはできなくても、備えることはできます。大きな災害に遭遇した時は、まずは自分の命を自分で守る「自助」が防災の基本になります。次に、自分だけでなく、家族や近所の人たちと助け合う「共助」が大切になります。

災害に備えるためには訓練が欠かせません。学校でも定期的に避難訓練を実施していますが、大規模な災害への訓練として、9月3日に羽村市の総合防災訓練が4年ぶりに行われます。コロナ禍前は市立中学校の2年生が授業として参加していましたが、今年は授業としての参加はありません。しかし、「共助」にとって中学生の力は欠かせません。仕事や高校生・大学生が市外に出ている時に大きな災害が発生したら、地域の一員として活躍するために、積極的に訓練に参加して欲しいと思います。保護者・地域の皆さまも、羽村市の訓練に是非ご参加ください。

